

## 令和2年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業



オンライン会議システムを併用しての検討協議の様子

令和2年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館、日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁）は3月14日、日本相撲連盟会議室で研究者9名が参加して行われた（そのうち4名は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、オンライン会議システムを利用して参加）。本事業は、令和3年度から完全実施される中学校新学習指導要領に準拠した相撲授業の充実を目指し、相撲の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる指導法を検討することを目的とする研究会である。

### ◇開講式

開講式では、安井和男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立ち、「本日は、オンラインで参加される先生方もおられます。検討課題がたくさんありますので、円満に効率よく進め、子どもたちのためにしっかりと審議・研究をしていきたい」と述べた。

続いて、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が「平成24年度に武道が必修化され、令和3年度で10年目を迎えます。当時、中学校1年生で武道授業を受けた方も、すでに成人しています。将

来的には、日本国民全員が何らかの武道を学んだという時代になりますので、今から楽しみにしています。本研究事業では、相撲を学んだ子どもたちが、楽しかったと思えるような授業の研究をお願いいたします」と挨拶を述べた。

続いて、研究者を代表して桑森真介<sup>まさすけ</sup>研究者が、「武道が必修化され、日本相撲連盟はまず『中学校体育相撲指導の手引き』を作成しました。それが我々の指導根幹になり、その後、日本武道協会から『中学校武道必修化指導書』が発行されました。また、同協会では新たに『少年少女武道指導書』を作成中であり、それに合わせて再び連盟の『手引き』を更新してまいります。本日はその作業を行うほか、『少年少女武道指導書』原稿と月刊『武道』掲載記事の確認・修正、次年度の活動内容の確認をしていきますので、よろしくお願いいたします」と述べた。

開講式の後、満留久摩<sup>みつとめきゆうま</sup>研究者の司会・進行で協議が進められた。はじめに桑森研究者から、「平成24年3月に日本相撲連盟が発行した『中学校体育相撲指導の手引き』の改訂版を作成する。改訂作業のひとつとしては、日本武道協会が発行する『少年少女武道指導書』に掲載するために作成した指導計画・指導案を一部掲載することにし

たい。そのように改訂すれば、新学習指導要領に対応した内容になる」と発言があった。

「改訂作業にあたって重要なことは、①評価の観点 が 4 観点から 3 観点に変更になったこと②例示されている技能が変わったこと③主体的な学び・対話的な学びをどう強調するかという点になる。ただし③については現行の『手引き』で、「やってみて・気づいて」という点を大事に作成しているため、大きく変更する必要はないのではないか」と満留研究者から発言があった。なお、本研究事業で作成した『手引き』の改訂版は、修正に至る経緯を前文に掲載したうえ、連盟 HP において全国の指導者と共有することとなった。

まず、評価について、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の実施にあたり、3つの観点を下記のように規定したことを確認し合った。

①主体的な学び＝運動の興味や関心を高め、課題解決に自ら取り組み、それを考察する学びの過程。  
②対話的な学び＝課題の解決に向け、生徒が他者との対話を通し、自己の思想を深める学びの過程。  
③深い学び＝課題に気づき、試行錯誤を重ねて思考を深め、よりよく解決しようとする学びの過程。

「これらは、相撲の特性である用具や施設に縛られない、ルールが簡単で限られた技能でも「技能の学習→簡易試合→仲間との学びあい→課題の発見→解決に向けた思考と試行→気づきの共有化→新たな技能の学習」という流れで組み込む工夫ができる」と満留研究者から発言があった。



オンライン会議システムでの参加研究者。左上から、安藤均・堀内弥・上村裕一・太田麻乃研究者（敬称略）



続いて、技能の指導について協議の中で、「基本となる技」で例示してある「巻き返し」を、一般的によく使われる「寄り」として提示し、「押し」の括りには入れない旨協議された。また、文章修正の際は、読み手が読みやすくなるよう、読み方に困るような箇所があれば平仮名で記載するよう桑森研究者から説明があった。

指導と評価の計画の協議では、上村裕一研究者から、当初身に付けさせようとしていた技ではなく、自然発生的に別の技を行った生徒がいたという事例の報告があった。それに対して桑森研究者から、「技に入る前の崩し方により、様々な動きにつながる可能性が出てくる。そのうえで派生した技を否定するのではなく、容認するという考えでよい。ただし、指導の流れとしては、基本動作からつながる技を教えるということで間違いではないので、柔軟に対応していくように」と発言があった。

その後、単元計画や評価基準について協議を進め、月刊『武道』および『少年少女武道指導書』の確認作業、次年度の活動内容確認へと移った。

#### ◇閉講式

全ての協議を終えて閉講式では、浦嶋三郎研究者が「令和2年度はコロナに明け、いまだ収束しない状況です。そのような中で研究者の皆様にお集まりいただき、新学習指導要領に基づく指導法についてご協議をいただき、厚く御礼申し上げます。本日は誠にありがとうございました」と講評を述べ、最後に中島昭博日本武道館振興課長が挨拶し、本研究事業の日程が終了した。